

令和5年度 全国学力学習状況調査から

羽曳野市立古市小学校

1. 調査の目的

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、結果を把握・分析し、教育全体の質の向上をめざすものです。学校においては、教育指導の充実や授業改善に取り組み、さらなる教育の質の向上をめざすために取り組まれています。今年度の調査内容は、教科として国語・算数、学習意欲・学習習慣・学習環境・生活面を調査として質問紙がありました。

本校では、調査結果を踏まえ、児童の学習状況の改善や指導内容・指導方法の改善に努めてまいります。

本校の調査結果と分析については、以下のようにお知らせいたします。

2. 調査の対象・・・第6学年児童

3. 調査の実施日・・・令和5年4月18日

4. 調査結果

	成果	課題
国語	<p>「目的や意図に応じ話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができるかどうかを見る」問題について、大阪府平均と全国平均より正答率が上回っていた。</p> <p>「送り仮名に注意して漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題について「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」問題は、大阪府平均と同程度であった。</p>	<p>「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題や「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることができるかどうかをみる」問題については、大阪府平均を下回った。</p>
算数	<p>「正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題について、大阪府平均と全国平均より正答率が上回っている。</p> <p>「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために表の中の適切な数の組みを用いることができるかどうかをみる」問題や「一の位が0の二つの二位数について乗法の計算をすることができるかどうか」問題、「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題、「(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる」問題について、正答率が大阪府平均と同程度であった。</p>	<p>「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる」問題や「二次元の表から条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」問題については、大阪府平均を下回った。</p>
児童質問紙	<p>学習面 国語科の「解答時間は充分でしたか」の「当てはまる」が大阪平均より上回っている。</p> <p>生活面 「自分にはよいところがある」の「当てはまる」は昨年度より大きく上昇している。</p> <p>「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」や「友達関係に満足している」について「当てはまる」が全国平均より大きく上回っている。</p>	<p>学習面 「家庭学習」について「全くしない」が大阪府平均より多い。</p> <p>「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」について「当てはまらない」が大阪府平均より多い。</p>

〔課題の解決にむけて〕

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけられる授業に取り組んでいきます。

〔課題の解決にむけて〕

小数の計算の復習や二つの数量の関係を表から読み取る活動を取り入れ、考察できる授業に取り組んでいきます。

5. 結果から考えられること

○本校の研究教科「算数科」においては、日々の学習活動を通し、自分の考えを伝え合い、深い学びへつなげる取り組みが、一定の成果をあげていると考えられる。
○昨年度より、解答時間が充分であったと答える児童が多く、無解答率も減っていることから、文を読み取って自分の考えを書く算数科の「自力解決」の時間がどの教科にもつながっていると考えられる。

6. 今後の主な取り組み

○今後も研究テーマ「自分の考えを伝え合い、深い学びをめざして」の実現に向けた授業実践を重ね、その成果を日々の授業に取り入れていく。特に、算数の授業の進め方として「出合う・結びつける・向き合う・つなげる・ふりかえる」の学習活動を大切に、主体的・対話的に深い学びにつなげていく。
○基礎学力の定着と、家庭学習の習慣作りにつながるような宿題や自主学習の取り組みをドリルパークなどを活用しながら発達段階に応じて進めていく。
○朝読書を週4回取り組み、図書バックの活用をすすめ、常に本を傍らに常備することで、読書に親しむ習慣を育てるとともに、家庭でも読書に取り組みやすくし、語彙力の向上を図る。
○1人1台のタブレット端末などのICT機器を有効活用し、情報活用能力の育成を図る。
○保幼小中の連携を強化し、学びの連続性を意識した一貫教育の実現をめざす。

7. ご家庭へのお願い

○自主学習ノートなどを利用し、現在取り組んでいる学習内容はもちろん、以前に学習したことの復習などにも積極的に取り組んでください。
○ゲームやSNS、ユーチューブなどの動画視聴は、時間や使い方を決めていただくようお願いいたします。
(文部科学省による資料でも就寝時間の1時間前から利用を控えるようよびかけています。)